

最北端から最先端へ -新エネルギーが、稚内を変える-

グリーンフォーラム21 環境フィールドワーク(北海道)



利尻島
グリーンフォーラム21環境フィールドワーク
ク参加メンバーは、利尻島をたずねた。利尻島は、稚内の西、道北の日本海に浮かぶ。

ふところ 懐深く受け入れる鷹揚さ

かぶ田形の離島、急峻な山頂から海岸まで、立ち、うっすらと緑が広がる。この山が知れ渡っているのは、深田久弥の著書「日本百名山」に負うところが大きい。「島全体が一つの山を形成し、しかもその高さが千七百メートルあるような山は、日本には利尻島以外にない」とするリード部分は有名。冒頭に、「キリマンジャロは標高6007メートルの雪に覆われた山で、アフリカの最高峰である」と書かれる。ヘミングウェイの代表作のひとつ「キリマンジャロの雪」を、想起させる。



「ここ数年のことだが、2、3月に豪雨が降るようになった」と話す。お隣の礼文島のようには、雪が少なく、候異変が、こも着実に起きているようだ。では、みられないもの、温暖化に起因するのでは、と思われ、これまでにない天候異変が、こも着実に起きているようだ。



日本のてっぺん、宗谷岬

稚内の基幹産業は、今も昔も水産業である。ここに変化はない。だが現在、水揚げは最盛時の五分の一ほどに縮小している。

「稚内をいかに再生させるか?」。
まちおこし推進組織として、稚内市、企業・団体、個人などから構成される、まちづくり協議会「稚内新エネルギー研究会」が、05年3月に設立された。活動目的は、環境と新エネルギーで経済を好循環させ、稚内を再生すること。雇用が生まれれば、人は自然に戻ってくる。



新エネルギーのシンボル、メガソーラー

た。稼働率は40%で、日本で一番。風車基礎工事など、4万人の雇用が生まれた。ちなみに、稚内の総人口は約3万8千人である。

グリーンフォーラム21は、11年秋の環境フィールドワークで、観光資源とグリーンエネルギーのモデルタウン構築を目指している。



CO2排出量を約40%削減

事業経営と環境対策の一体化

同社北海道工場(恵庭市北柏木)は、07年2月に操業開始。ここでは、未利用、再生可能エネルギーを活用し、CO2排出量の約40%削減(2010年度・同社試算)に成功した。



バイオマスでエネルギーの地産地消



現在、環境問題への配慮と豊かさの両立の追求がなければ企業活動が成り立たなくなっています。具体的には、「エネルギー使用量を減らしながら、経済成長を図る」という難題を解決する必要性に迫られています。

そのソリューションと目されている「スマートな低炭素社会」へ着実に移行するため、「エネルギーパラダイム」の変容がキーポイントになっています。自然エネルギーなどの優先活用を実現する革新的技術の開発をはじめ、生活まわりや産業のあり方を変革、創生する復元力も同時に求められます。

とりわけ、エネルギー最適利用をもたらす分散型システムの発展に大きな期待がかかっています。新たな企業価値の創造が望まれます。これはもう、待たなしです。

今年、創設22年目となるグリーンフォーラム21は、先導役を力いっぱい果たしていきます。

エネルギー最適化で スマートな低炭素社会

グリーンフォーラム21の活動に参加しています。

旭化成、岩谷産業、NEC、NTT、大阪ガス、関西電力、住友化学、住友ゴム工業、住友商事、Jパワー、東京ガス、東芝、トヨタ自動車、日本環境認証機構、日本政策投資銀行、日本製紙グループ本社、日立製作所、プリチストン、ホンダ、三井物産、三菱電機